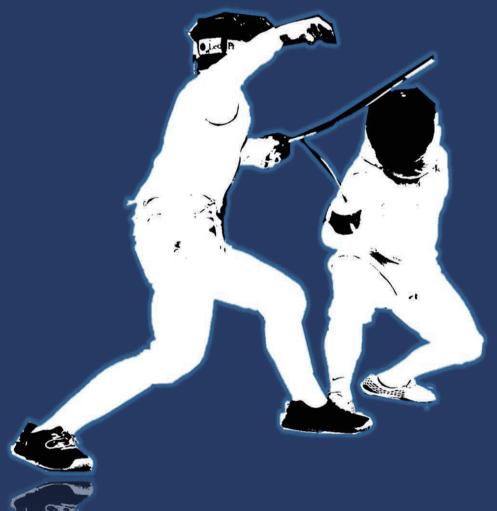
The 80th Anniversary



Kansai University Fencing Club



創立 昭和12年

関西大学創立80周年記念誌「体育会の歩み」(関西大学体育会本部 昭和40年発行)より抜粋し再編集。使用されている漢字・表現は原文のままで、少々不適切な表現もあります。

「創立当時の思い出」

田中竜一郎

先日来、関大フェンシング部の創設者として昔の物語りをと所望され、今だに現役の様な気でいるのにと思いつつも、段々と年月の経過と共にわからなくなる過去を明確に記録しておくことも、私の義務だと思い創始当時をひもといていく。

 \times \times \times \times

昭和12年始め、私(法2年)と八尾壮比古(2予2年)

君は、大阪YMで、関西フェンシングのフロンティアーであった的場逸雄氏よりフェンシングの指導をうけていた。当時同好の志として福田宗次郎、辰馬兵蔵、川崎作実の3氏に高井、華岡さんという面々に私たち2人が入っていた。この他に女性として既に細川マル子という女学生が加わっていた。

当時の剣は全てフランスから輸入していた。フルーレの剣身が、たしか 2.5 フラン位だったと記憶している。練習は週 3 回で逐次参加であるが、終りは一諸で的場さんの「もう上ろう」という声で私たちはホッとして解放されたものであった。

その内、慶応大学がチーム対抗 として西下し、昭和12年5月に大 阪クラブと初の東西対抗戦を行っ た、結果大阪が5対1で大勝し関 西として初すべりは好調であった。

だがこれを転期として慶応はもの凄く爾後のびてしまい、関西は再 びこのような成績をとることは出来なくなってしまった。

的場さんは既にこの時関西でフェンシングの底辺を拡げるため の施策として、学校に入れようとしていた。それで第一に私に関大 にクラブを作るよう話し出された。

昭和12年6月15日 部長に賀来俊一教授にお願いし、クラブ則を添えて創設願を学長に提出した。

この日をもってわが部の誕生といえるだろう。折返し 10 日ばかり経つと学校側から「公認団体役員書」を提出するよういってきた。まさか 2 人のクラブとも言えないので、私が主将、八尾君がマネージャ、他はたのみ廻って名前を貸してもらって 12 名のクラブ員を獲得し、学生課に届を提出し許可をいただいた次第である。全く時代がかっているので今の人はお笑いの事と思う。その月に早速、村嶋幹男君が入部を希望してきた。

当時の毎日新聞のスポーツ欄を引用してみよう。 "フェンシング 熱" というタイトルに第1回講習会の練習試合の写真を入れ、見出しに「東京クラブ生る」次いで「関大にも」とあり、関大では関西諸大学のトップを切ってこのほどフェンシング・クラブを創立、来るべきオリンピック東京大会を目指して猛練習を続けるとともに関西方面のフェンシング熱を煽ることになった。

(建この東京大会は1940年のヘルシンキ大会のことである)

練習については、月水金は大阪でやり、火木土はデモをかねて千里山でやった、処が練習場がないものだから、クラブハウスでやり、雨が降るとやれないので学部の廓下でやったり又、予科の売店前でやったり、部室をもたないクラブの苦難の連続であった。8月になって山口吉雄君が入部を希望してきた。

公認団体とはなったが校友会に入り予算をとるためには、クラブでは一寸難しいので、部則の変更届を出して、昭和 12 年 9 月 15 日にフェンシング部として発足した。

フェンシング部



事がでた。

酒田清光 監督

この時の関大新聞の「千里燈」欄に発足を祝して次のような記

の第2軍として出場した。私は望月君と対戦し勝ち、八尾君は中山君とやり敗。第1戦は1勝1敗でまずまずという結果であった。 部員の獲得は、千里山だけでなく、天六学舎にも行こうと八尾

部員の獲得は、十里山たけでなく、大六字書にも行こっと八尾 君と2人で足繁く専問部に通い始めた。

ここで専問部の、谷満雄、内田堅、佐藤友久の 3 君が入部して きた。次いで千里山では木戸準一郎君が入ってきた。名簿上は仮

空の人物ではなく実在の部員が賑やかとなってきたが、仲々サボリが多くて練習のため集めるのに八尾君が随分苦労していた。

ここで八尾君について一寸ふれたい。当時諸事に若く気短かであった。私をよく補佐し、常に私と喜びも悲しみもわかち合っていたが、私が随分と苦労させた方である。当時の関西フェンシング協会との間をよく取りもって呉れたりした。仲々いい人物であったが、聞けば南方のニューギニヤの海域で戦死した由、全く好人物を失ったものである。私の心の支

柱を現在も未だ彼にたよっている。

苦労のかけ放しで彼にはほんとうに申訳なく思っている。 彼が 健在なりせば、関大フェンシング部の苦労を一身に引受け、やってくれる姿が彷彿と目に浮ぶ。

「フェンシングに偲う」 山口吉雄

私が関西大学第2予科へ入学したのが昭和13年4月、天中同窓の鈴木、石脇、小倉等は陸上部に私は自分の身体と好みによって校内のスポーツには入らずに当時同好者が集っているYMCAのクラブに加わった。このクラブは天中先輩の的場、福田氏等が集ってフェンシングの基本の研究練習中だった。

今でこそ海外遠征だとか外人コーチの指導があってその術は選手の間に普及したが当時は剣の握り方、突き方さえ明確でなく止むを得ず丸善に洋書の注文をして弱い英語の力で自分で解決しなければならなかった。然しこれは当時に限ったものでなく剣や装具の改良がなされ電気審判器が使用される今日でも世界の技術の進歩に遅れない為には必要な事柄であり特に東京に遠く離れ新し

最近5ヶ年間の戦績

~~~~~~~~~

昭 和 38 年 関西リーグ 優 勝 (総合) 昭 和 38 年 王座決定 エペ・フルーレ 2 位 昭 和 38 年 全日本大学対抗 エペ・サーベル 2 位 昭 和 39 年 関西リーグ完全総合 優 勝

昭 和 39 年 関西リーグ完全総合 優 勝昭 和 39 年 王座決定戦フルーレ 優 勝エペ・サーベル 2 位

昭和39年 全日本大学対抗戦サーベル 3位 昭和40年 関西リーグ 優勝(総合)

昭和40年 王座決定戦フルーレの部 優 勝(2連勝)

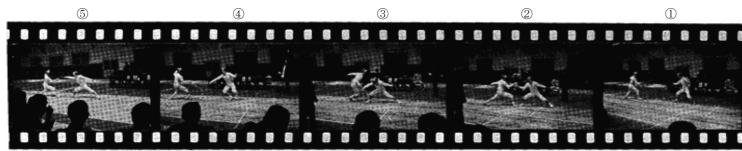
い技術情報に接し難い大阪では常に努力しないと不利益を受け関 東勢の後塵を拝することになることは関西の学生が常に関東勢に 一目置いて優勝を逸して来た事実がこれを如実に物語って来た。

私は昭和16年12月繰上げ卒業ここで第1回の学徒動員として翌17年入隊、昭和20年降服と共に軍務を解かれたが帰る大阪の家は空襲の為大切にしていた剣装具一切灰儘に帰していた。然しフェンシングに対する愛情は燃え続け食料事情の好転につれて再びYMCAに練習を開始し旧友が帰還するのを待ってこの部の復活を図った。この様なとき旧友の今は無き石脇君の甥が関大に入学したのを知り戦后の部の創立にとりかかったところ、本人の先輩の大森君(広島グランドホテル勤務)の努力により戦后第1代の主将以下数名の部が昭和23年に出来上り第1回合宿を私の勤務校で毎日通勤の練習を夏期休瑕中に行った。剣が無い為に折れた剣をブリキで継ぎ合せハンダづけする等現在の選手には理解出来ない努力が必要だった。爾来17年監督、総監督として春夏の合宿を後輩と練習を共にして来ましたが昭和37年には世界選手権大会(アルゼンチン)遠征軍の監督に選ばれ途中米国選手権にも参加し米国並に各国の役員、コーチ、選手に接し海外選手の技術と

戦い振りを知り日本選手の今後の方向と技術改善に悟るところがあり又大会運営に関する知識も獲得出来、加えるに全米選手権では武内嬢の優勝という日本フェンシングの進歩に対する国際的証明書迄載いて帰国出来たことは私には多すぎる収獲であった。

爾后後輩の指導にはこの知識と体験を生かす様に努めた所、昨38年は関西学生リーグ戦で2種目優勝、全日本大学対抗戦ではフレーレサーブルに2位となり、記念すべき本年は関西学生リーグ戦3種目完全優勝、全日本王座決定戦に於いてはフルーレ優勝エッペ・サーブル2位の本部創立以来の偉業を近藤主将以下奥野、唐崎、定本、藤田、綿榎の各選手の近年に例を見ない不断の努力の結果これを勝ち得ることが出来たことは永年この道に努めた諸先輩と共に彼等の努力を讃えなければならない。

この間陰になり経済的援助を惜まなかった水間先輩並に其后の 後輩の諸兄と常に技術的助言の支援を下さった福田氏(協会常任 理事)に深く感謝すると共に顧問の桜田、広岡両先生に御礼を申 上げて私の思い出を終りたいと思います。

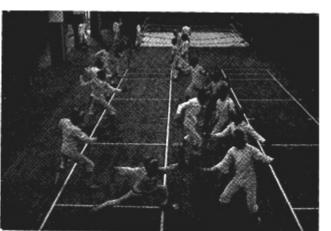


 <対 同 志 社 定 期 戦>
 近 藤 (本学) 対 西 村 (同大)

 ①~④ 両選手の打ち合い
 ⑤最期のアタックで近藤の勝

#### 練 習 風 景









#### 80年の歩み

- 昭和11年 大日本アマチュアフェンシング協会発足(会長 曽我裕朗氏)(創始者 本間寿一氏)。
- (1936) 大阪YMCA講習会開催(指導者 的場逸雄氏) 関大より田中・八尾・山口の3氏参加。
- 昭和12年 関大フェンシング部創立(部長 賀来俊一教授、主将 田中龍一郎、主務 八尾比古夫)
- (1937)
- 昭和13年 大阪YMCA洋書購入、基本技術研究開始(関大より山口氏参画)
- (1938)
- 昭和14年 第3回全日本選手権大会開催(関大より木戸・八尾・山口の3氏出場)、木戸準一郎氏がフルーレ
- (1939) 個人優勝、サーブル個人準優勝。
- 昭和15年 関学フェンシング部発足、新人対抗戦開始。
- (1940)
- 昭和16年 (戦争のため休部)
- (1941)
- 昭和20年 終戦、大阪YMCA練習再開(関大より山口氏参加)。
- (1945)
- 昭和22年 関大フェンシング部復活(監督 山口吉雄、主将 大森邦久、主務 石脇潤一)。
- (1947) 戦後、第1戦早大チームと実施。
- 昭和23年 初合宿を山口氏勤務先および武徳殿にて実施。
- (1948) 全日本選手権で山口吉雄氏がフルーレ4位、エペ2位入賞。
  - 第1回同大定期戦開催。早大対抗戦開催。
- 昭和24年 明大、立大、同大と四大学対抗戦開催。
- (1949)
- 昭和25年 部長に櫻田譽氏就任。
- (1950) 全日本選手権大会で上田悦子(現姓 阪野)氏が女子フルーレ4位入賞。
  - 第1回法大定期戦を開催。
- 昭和26年 関西学生フェンシング連盟発足(会長 櫻田譽氏)。
- (1951) 関大・関学・同大・立命の4校加盟。(関大より副委員長 木村氏、渉外部長 千島氏就任)
- 昭和27年 関西学生リーグ戦フルーレの部、優勝。全日本学生王座決定戦準優勝。
- (1952) 関西大学2部フェンシング部発足
- 昭和28年 全日本学生個人選手権フルーレの部、近葉良次氏3位入賞。
- (1953)
- 昭和29年 関大一高 フェンシング部創設(部長 濱口誠也氏、部員 森垣、望月、山本、古市他5名)。
- (1954) 関大OBダンスパーティ開催(於 難波パラマウント、料金100円)
- 昭和30年 関西大学創立70周年記念大学祭開催。グラウンドにて野試合、経商学部屋上にて公開練習実施。
- (1955) 部長代理に廣岡英雄氏就任。新部章作成。
- 昭和31年 関西学生リーグ戦エペの部、初優勝。
- (1956) 全日本学生王座決定戦準優勝。
  - 関大フェンシング部後援会発足(会長 水間通夫氏)。
- 昭和32年 第28回大学祭にて第1回OB・現役対抗戦開催。
- (1957)
- 昭和33年 千里スオードメンズクラブ(千里デュアリストクラブ→現千里クラブ)発足。
- (1958) 部内報「THE DAGGER」発刊。
  - 総監督制採用(総監督·監督 山口吉雄氏、関大一高 茂刈慶三氏)。
  - 法政大学80周年記念スポーツ祭典(於国立競技場)参加。
  - 対明大定期戦で9年ぶりに優勝。
  - 大阪府フェンシング協会理事長に山口吉雄氏就任。

昭和34年 部長に廣岡英雄氏、監督に酒田清光氏就任。

(1959) 兵庫県福崎警察署正月演武式にフェンシング競技を披露(関大より山口、古市、石水の3氏参加)。 在神戸関大クラブ発足。第1回千里デュアリストクラブ対現役対抗戦開催。

昭和36年 監督に細川和男氏就任。

(1961) 全日本大学対抗戦フルーレの部4位入賞。

総監督山口吉雄氏、国体10回出場表彰を受賞。

関大フェンシング部後援会解散。

昭和37年 世界選手権(アルゼンチン)日本代表監督に山口吉雄氏就任。

(1962) 大阪府フェンシング協会副会長に山口吉雄氏就任。

昭和38年 関西学生リーグ戦フルーレ、エペの部1位で初の総合優勝。

(1963) 全日本学生王座決定戦は共に準優勝。

千島不二雄氏が国体10回出場表彰を受賞。

第9回インターハイで関大一高 藤田博氏優勝。

昭和39年 関西学生リーグ戦、2年連続総合優勝。

(1964) 全日本学生王座決定戦フルーレの部、初優勝。エペ・サーブルの部、共に準優勝。

全日本学生個人選手権、エペの部近藤遒氏準優勝、サーブルの部、定本博氏3位入賞。 オリンピック東京大会開催。関大より山口、千島、酒田、茂苅、山本、古市、芽木、森川の8氏が 役員参加。

大阪府フェンシング協会理事長に田中龍一郎氏就任。

監督に酒田清光氏就任(再任)。

昭和40年 関西学生リーグ戦3連覇。

(1965) 全日本学生王座決定戦フルーレの部、2年連続優勝。

全日本大学対抗戦フルーレの部、初優勝。祝賀会開催。

関西大学80周年記念スポーツ祭典開催。

昭和41年 関西学生リーグ戦4連覇。

(1966) 全日本学生王座決定戦フルーレの部、準優勝。

全日本大学対抗戦エペの部、初優勝。

全日本学生個人選手権大会サーブルの部、青野利光氏準優勝。

山口吉雄氏、日本フェンシング協会理事長に就任。

昭和42年 監督に古市仁氏が就任。

(1967) 関西学生リーグ戦5連覇。

全日本学生王座決定戦エペの部、優勝。

全日本学生個人選手権サーブルの部、藤田博氏が優勝。

ユニバーシアード東京大会開催。関大より藤田博氏出場。サーブルの部団体準優勝。役員に桜田、

山口、茂苅、古市の4氏が参加。

フェンシング競技で初の関西スポーツ賞授賞。

昭和43年 関西学生リーグ戦6連覇。

(1968) 全日本学生王座決定戦エペ、サーブルの部、共に準優勝。

全日本学生個人選手権エペの部、萩原幸平氏優勝。

オリンピックメキシコシティ大会開催。日本代表監督に山口吉雄氏就任。

関大正課体育にフェンシング復活。講師に山口吉雄氏就任。

昭和44年 関西学生リーグ戦7連覇。

(1969) 全日本学生王座決定戦エペ、サーブルの部、共に準優勝。

全日本大学対抗戦サーブルの部、優勝。祝賀会開催。

部内誌「ひょうたん」発刊。

昭和45年 関西学生リーグ戦8連覇。

(1970) 全日本学生王座決定戦フルーレ、サーブルの部、共に準優勝。

ユニバーシアードトリノ大会開催。関大より熊野則雄氏出場。

昭和46年 関西学生リーグ戦9連覇ならず。

(1971) 大阪府フェンシング協会理事長に山本久米雄氏就任。

昭和47年 監督に森川忠男氏就任。

(1972) 全日本学生個人選手権フルーレの部、吉尾勇典氏3位入賞。

昭和48年 関西学生リーグ戦最下位。1、2部入替戦敗退、2部リーグ降格。

(1973) 日本フェンシング協会功労賞を山口吉雄氏受賞。

昭和49年 部長に豊永彰氏が就任。部長就任ならびに山口吉雄氏銀婚祝賀会開催。

(1974)

昭和50年 監督に近藤遒氏就任。

(1975)

昭和51年 関西学生リーグ戦2部優勝。1、2部入替戦敗退。2部リーグ残留。

(1976)

昭和52年 関西学生リーグ戦2部優勝。1、2部入替戦敗退、2部リーグ残留。

(1977) 大阪府フェンシング協会会長に山口吉雄氏、副会長に吾妻幸昭氏、山本久米雄氏、理事長に古市仁氏就任。 監督に藤田博氏が就任。

昭和53年 監督に加藤康典氏就任。

(1978)

昭和56年 大阪体育協会35周年記念式典で山口吉雄、古市仁両氏が感謝状を授受。

(1981) 監督に上野山建弥氏就任。

昭和57年 OB会幹事長に木村雅昭氏就任。

(1982)

昭和59年 廣岡名誉部長博士号取得、祝賀会開催。

(1984)

昭和60年 OB会幹事長に吾妻幸昭氏就任。

(1985) ユニバーシアード神戸大会開催。役員として山口、古市、山本、森川の4氏が参加。

昭和61年 関西大学創立100周年記念式典開催。

(1986)

昭和62年 〇B会体制強化(名誉会長 山口吉雄、会長 大森邦久、副会長 木村雅昭、千島不二雄、幹事長 近

(1987) 籐遒)。機関誌「なまず」発刊。創部50周年記念準備委員会発足(委員長 吾妻幸昭、副委員長 山本久米雄、古市仁)。

明大フェンシング部50周年記念式典に参加。

大阪府フェンシング協会副会長に古市仁氏、理事長に定本博氏就任。

寺井忠行氏が国体10回出場表彰を受賞。

昭和63年 監督に芽木正弘氏就任。創部50周年記念式典を開催(於新阪急ホテル)。

(1988)

平成5年 大阪府フェンシング協会理事長に芽木正弘氏就任。

(1993) OB会役員改選(会長 酒田清光、副会長 上田貞一、茂苅慶三、古市仁、監事 山本久米雄、幹事長 加籐康典)。 大阪市フェンシング協会発足。会長に吾妻幸昭氏、理事長に定本博氏就任。

平成6年 監督に仲井修氏就任。

(1994) 関西学生リーグ戦2部最下位。2、3部入替戦敗退、3部リーグ降格。

平成7年関西学生リーグ戦3部優勝。2、3部入替戦に勝利し、2部リーグ復帰。

(1995)

平成8年創部60周年記念準備委員会発足。

(1996)

平成9年創部60周年記念式典開催(於新阪急ホテル)。創部60周年記念誌並びに会員名簿発刊。

(1997) 関西学生リーグ戦2部最下位。2、3部入替戦に敗退し、3部リーグ降格。

平成10年 関西学生リーグ戦2、3部入替戦勝利し、2部リーグ復帰。

(1998)

平成11年 関西学生リーグ戦22年振りに2部優勝。1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ残留。

(1999) 部長に石坂恒氏就任。

平成12年 元部長、豊永彰氏 退官。

(2000)

平成13年 関西学生リーグ戦2、3部入替戦敗退し、3部リーグ降格。

(2001) 関西学生リーグ戦女子、入替戦なしで創部初1部リーグ昇格。 監督に寺井忠行氏就任。

平成14年 関西学生リーグ戦女子1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ降格。

(2002) 2003年度入試にスポーツ推薦入試(SF入試)導入決定

平成15年 SF入試1期生 橋詰俊宏氏(北陸高校)入学。

(2003)

平成16年 関西学生リーグ戦女子、入替戦なしで1部リーグ復帰。

(2004) 関西学連ハンガリー・フランス遠征に、新井麻衣子氏(現姓 中西)参加。 日本で初めて開催された、高円宮杯ワールドカップ福井大会に、新井麻衣子氏(現姓 中西)出場。

平成17年 部長に孝忠延夫氏就任。

(2005) OB会長に芽木正弘氏就任。

平成18年 関西大学体育OB·OG会創設50周年記念誌発刊。

(2006) 関西学生リーグ戦女子1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ降格。

平成19年 創部70周年記念式典開催(於大阪第一ホテル)。OB会ホームページ立ち上げ。

(2007) 関西学生リーグ戦女子2部優勝。入替戦なしで1部リーグ復帰。

平成20年 関西学連ハンガリー遠征に、塗香菜子氏参加。

(2008)

平成21年 OB会長に加藤康典氏就任。

(2009) 関西学連事業でハンガリーからコーチ招聘。

第1回なまず杯開催(開催されていた、OB・現役対抗戦を名称変更)。

関西学生選手権エペ、男子団体準優勝。

平成22年 関西学生リーグ戦2部優勝。1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ残留。

(2010) 関西学生選手権フルーレ、女子団体準優勝。

昭和30年卒 植田泰弘氏、旭日双光章 叙勲。

関西学連事業の韓国遠征に、小林彩乃、安江裕衣両氏参加。

平成23年 OB会を「OB・OG会」に名称変更。

(2011)

平成24年 関西学生リーグ戦女子フルーレ準優勝、王座決定戦出場。

(2012)

平成25年 関西学生リーグ戦2部優勝。1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ残留。

(2013)

平成26年 関西学生リーグ戦女子1、2部入替戦に敗退し、2部リーグ降格。

(2014) 部長に西澤希久男氏就任。

関西大学フェンシング部ホームページ開設。

平成27年 OB・OG会長に寺井忠行氏就任。

(2015) 関西学連事業の韓国遠征に、桒井友里恵氏参加。

平成28年 前部長、孝忠延夫氏 退官。

(2016) 監督に粂井章宏氏就任。

平成29年 ジュニアワールドカップハンガリー大会に、桒井友里恵氏が日本代表(サーブル)として出場。

(2017) OB・OG会長に藤田博氏就任。

関西大学体育会フェンシング部フェイスブック開設。

#### 歴 代 役 員

| 年度            | 部 長     | 監督      | 主将        | 主務      |
|---------------|---------|---------|-----------|---------|
| 昭和12 (1937) 年 | 賀 来 俊 一 |         | 田中龍一郎     | 八尾 比古夫  |
| 13 (1938) 年   | 11      |         | 11        | "       |
| 14 (1939) 年   | 11      |         | 木 戸 準 一 郎 | 水 間 通 夫 |
| 15 (1940) 年   | 11      |         | 山口 吉雄     |         |
| 16 (1941) 年   | 11      |         | 11        |         |
| 17 (1942) 年   |         |         |           |         |
| <b>↓</b>      | 戦争のため休部 |         |           |         |
| 2 1 (1946) 年  |         |         |           |         |
| 2 2 (1947) 年  |         | 山口 吉雄   | 大森 邦久     | 石 脇 潤 一 |
| 2 3 (1948) 年  |         | "       | 11        | II.     |
| 2 4 (1949) 年  |         | "       | "         | "       |
| 2 5 (1950) 年  | 櫻田譽     | JJ      | 石脇 潤一     | 木 村 雅 昭 |
| 2 6 (1951) 年  | 11      | II .    | 木 村 雅 昭   | 今 村 真   |
| 27 (1952) 年   | 11      | "       | 千島 不二雄    | 酒 田 清 光 |
| 28 (1953) 年   | II .    | "       | 近 葉 良 次   | 保本 博三   |
| 2 9 (1954) 年  | II .    | "       | 11        | 神原甫     |
| 3 0 (1955) 年  | IJ.     | "       | 細川 和男     | 上田 貞一   |
| 3 1 (1956) 年  | IJ.     | "       | 岸田博文      | IJ      |
| 3 2 (1957) 年  | II .    | 11      | 立花昭生      | 明 石 幸 昭 |
| 3 3 (1958) 年  | II .    | "       | 山本 久米雄    | 古市 仁    |
|               | II .    | "       | 古市 仁      | 村田謙二    |
| 3 4 (1959) 年  | 廣 岡 英雄  | 酒 田 清 光 | 石 水 宏     | 小泉建     |
| 3 5 (1960) 年  | IJ.     | 11      | 篭 谷 治 夫   | 森田良祥    |
| 36 (1961) 年   | II .    | 細川和男    | 芽木 正弘     | 小島 一晃   |
| 37 (1962) 年   | IJ      | 11      | 小 林 一 夫   | 猪俣敏春    |
| 38 (1963) 年   | IJ      | 11      | 上野山建弥     | IJ      |
| 3 9 (1964) 年  | II      | 酒 田 清 光 | 近藤   遒    | 唐 崎 武   |
| 40 (1965) 年   | IJ.     | 11      | 定本博       | 日下 棟之   |
| 4 1 (1966) 年  | II .    | "       | 綿榎祥二      | 鹿 間 註   |
| 4 2 (1967) 年  | II .    | 古市 仁    | 藤田博       | 中 西 克 彦 |
| 4 3 (1968) 年  | II .    | "       | 桑田博文      | 岡山繁     |
| 4 4 (1969) 年  | II .    | "       | 奥 村 哲 夫   | IJ.     |
| 4 5 (1970) 年  | 11      | "       | 熊 野 則 雄   | ll l    |
| 4 6 (1971) 年  | IJ      | "       | 滝ケ花博通     | 車 武夫    |
| 47 (1972) 年   | IJ      | 森 川 忠 男 | 吉 尾 勇 典   | II      |
| 48 (1973) 年   | IJ      | IJ      | 西澤 丈正     | 鈴木潮     |
| 4 9 (1974) 年  | 豊永彰     | II      | 片 山 孔 男   | 生 田 基 継 |
| 5 0 (1975) 年  | JJ      | 近藤 遒    | II .      | 岡 崎 淳 子 |
| 5 1 (1976) 年  | II .    | IJ      | 寺 井 忠 行   | 萩 原 千 也 |

| 年    | 度      |   | 部   | 長   |   | 監  | 督 |   |    | Ė        | 三将 |   |   | È | 上 務 |   |
|------|--------|---|-----|-----|---|----|---|---|----|----------|----|---|---|---|-----|---|
| 昭和52 | (1977) | 年 | 豊永  | 彰   | 藤 | 田  |   | 博 | 寺  | 井        | 忠  | 行 | 萩 | 原 | 千   | 也 |
| 5 3  | (1978) | 年 | 1)  | 1   | 加 | 藤  | 康 | 典 | 垣  | 成        | 淳  |   | 松 | 本 | 辰   | 也 |
| 5 4  | (1979) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   | 寺  | 井        | _  | 人 | 早 | 崎 | 愛   | 彦 |
| 5 5  | (1980) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   | 加  | 藤        | 健  | 司 | 秋 | Щ | 美   | 葉 |
| 5 6  | (1981) | 年 | 1)  | 1   | 上 | 野山 | 建 | 弥 |    |          | IJ |   | 森 | 田 | 淳   | _ |
| 5 7  | (1982) | 年 | 1)  | ı   |   | J. | I |   | 西  | Ш        | 淳  | _ | 大 | 森 |     | 昭 |
| 5 8  | (1983) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   | Щ  | 村        | 宏  | 明 | 平 | 井 | 久   | 嗣 |
| 5 9  | (1984) | 年 | 1)  | ı   |   | J. | I |   | 前  | 口        | 彰  | 宏 | 武 | 田 | 寛   | 樹 |
| 6 0  | (1985) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 戸  | 塚        | 雅  | 之 | 米 | 正 | 恵   | 二 |
| 6 1  | (1986) | 年 | 1)  | ı   |   | J. | I |   | 吉  | 村        | 哲  | 巳 | 上 | 田 | 義   | 隆 |
| 6 2  | (1987) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   | 舛  | 永        | 光  | 生 | Щ | 本 | 卓   | 広 |
| 6 3  | (1988) | 年 | 1)  | 1   | 芽 | 木  | 正 | 弘 | 上  | 坂        |    | 治 | 黒 | 田 |     | 洋 |
| 平成元年 | (1989) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   |    |          | JJ |   |   |   | IJ  |   |
| 2    | (1990) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 市  | 原        |    | 淳 | 小 | 松 | 憲   | 明 |
| 3    | (1991) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 林  |          | 大  | 輔 | 岸 | 田 | 有 為 | 子 |
| 4    | (1992) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   |    |          | ]] |   | 森 | 田 | 淳   | 之 |
| 5    | (1993) | 年 | J)  | 1   |   | J) | I |   | 福  | 田        | 順  | 也 | 佐 | 伯 | 祐佳  | 子 |
| 6    | (1994) | 年 | 1)  | 1   | 仲 | 井  |   | 修 | 足  | <u> </u> | 直  | 崇 |   |   | ]]  |   |
| 7    | (1995) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   | Щ  | 本        |    | 亨 | 坂 | П | 光   | 男 |
| 8    | (1996) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   | 鴻  | 池        | 総一 | 郎 | 井 | 上 | 兼   | _ |
| 9    | (1997) | 年 | J)  | 1   |   | J) | I |   | 出  | П        | 智  | 啓 | 藤 | 野 | 将   | 明 |
| 1 0  | (1998) | 年 | J)  | 1   |   | J) | ı |   |    |          | IJ |   |   |   | ]]  |   |
| 1 1  | (1999) | 年 | 石 坂 | 恒   |   | J  | ı |   | 南  |          |    | 久 | 松 | 井 | 祐   | 樹 |
| 1 2  | (2000) | 年 | J)  | 1   |   | J) | ı |   | 楊  | 枝        | 宗  | 之 | 和 | 田 | 真由  | 子 |
| 1 3  | (2001) | 年 | J)  | 1   | 寺 | 井  | 忠 | 行 | 松  | 本        | 誠  | 子 | 筒 | 本 | 里   | 絵 |
| 1 4  | (2002) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | ı |   | 佐  | 伯        | 幸  | 亮 | 浅 | Ш | 有   | 希 |
| 1 5  | (2003) | 年 | J)  | 1   |   | J) | ı |   | 新  | 井        | 麻衣 | 子 | 三 | 浦 |     | 渓 |
| 1 6  | (2004) | 年 | J)  | 1   |   | J) | ı |   |    |          | IJ |   |   |   | ]]  |   |
| 1 7  | (2005) | 年 | 孝忠  | 延夫  |   | J) | I |   |    |          | JJ |   |   |   | JJ  |   |
| 1 8  | (2006) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 橋  | 詰        | 俊  | 宏 | 堀 |   | 由美  | 子 |
| 1 9  | (2007) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   | 中  | Щ        | 智  | 博 | 小 | 林 | 優   | 希 |
| 2 0  | (2008) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   | 小  | 林        | 佑  | 典 | 宮 | 本 | 直   | 宗 |
| 2 1  | (2009) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   |    |          | JJ |   |   |   | JJ  |   |
| 2 2  | (2010) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 小  | 林        | 和  | 将 | 後 | 藤 | 健 太 | 郎 |
| 2 3  | (2011) | 年 | 1)  | Ī   |   | J. | I |   | 高  | 木        | 陽  | 介 | 畠 | Щ |     | 彩 |
| 2 4  | (2012) | 年 | J)  | Ī   |   | J. | I |   | 淀  | 谷        | 芽  | 実 | 小 | 林 | 彩   | 乃 |
| 2 5  | (2013) | 年 | 1)  | 1   |   | J. | I |   | 石  | 原        | 弘二 | 朗 | 八 | 木 | 彩   | 織 |
| 2 6  | (2014) | 年 | 西澤  | 希久男 |   | J  | ı |   | 西  | 畑        | 倭  | 斗 | 秋 | 末 | 彩   | 道 |
| 2 7  | (2015) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | I |   | 秋  | 末        | 彩  | 道 | 島 | 田 | 恭   | 豆 |
| 2 8  | (2016) | 年 | J)  | 1   | 粂 | 井  | 章 | 宏 | 板  | 嶋        | 隼  | 奨 | 田 | 中 |     | 亘 |
| 2 9  | (2017) | 年 | 1)  | 1   |   | J) | J |   | 田田 | 中        |    | 豆 | 桒 |   | 友 里 | 恵 |

発行 2017年7月1日

関西大学体育会フェンシング部創部80周年記念式典実行委員会



# Kansai University Fencing Club Since 1937